

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報)／尾崎 士郎

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

学部では教科教育(技術科教育)と教科専門(材料加工の中の木材加工)、大学院では前者等を担当している。いずれにおいても学校現場の実践と関連性に留意しつつ、教科の背景となる教養及び基礎・基本とそれらを基盤とする教育実践力をもった教員の養成に努力している。本年度は以下の授業計画を立てて上記の目的を実現したい。

1. 教科教育(技術科教育)

学部の教育論IとIIでは、教科の目標、指導内容、指導計画の作成、学習評価の基礎・基本の理解の徹底を図り、大学院の教育研究でも教員養成系以外からの長期履修の学生が増加しており、学部と同様の基礎的な指導が必要となっている。特に、教材については、図表等のみによる資料を使って一方的に講義するのではなく、しっかりした文章を、できるだけ学生に読ませて、考察する演習を増やすことを心がける。実際の教育実践力の育成では、幅広い各論を数多く盛り込むのではなく、現職教員の研究会資料から優れた実践例を精選して教材化する具体的な努力を継続する。演習では、実際の授業実践を考慮したものづくりの学習指導に必要な教材製作等を中心に指導力を高める工夫を継続し、学年の後半では教員採用試験対策を充実する。

2. 教科専門(材料加工の中の木材加工)

従前に比較して、ものづくりに関する知識・理解と技能・技術において学生の資質が低下している。したがって、高度な教育の専門性と教育実践力等に必要な基礎的な内容の充実を図り、その上で各論となる応用力を身につけることが重要な課題である。そのために、これまで通り技術の専門科目では実習の科目が無く、学生の実技・実験等力量を充実する必要から、これらを改善するために、講義・演習等で実習と実験を含む内容を盛り込むことで充実を図る。また従来通り、教員採用試験の実技試験対策も積極的に取り入れて、学生の能力向上を図る。またディスカッション形式の授業の重視、レポートの追加、追試験に加えて口述試験を重ねるなどを併用したい。

2. 点検・評価

1. 教科教育

学部の教育論IとIIでは、基礎・基本の理解を十分に図ることを意識し、教材については、筋道だった文章の音読や、教育論の内容に対する考察やディスカッションを行うなどの工夫を行った。即効性のある実践力育成と教育実習での力量形成を視野に入れながら、現職教員の研究会資料を併用する等の具体的な教材を併用するなどの工夫を行った。同演習では、実際のものづくりの学習指導に必要な教材製作等を取り入れ、基本的なスキルの向上と、実技指導力を高める工夫を継続し、教員採用試験対策を取り入れた。コース教員すべての取り組み、学生の努力に因るが、学部の小学校教育専修技術教育コースの学生全員が二次合格であった。しかし、中学校教育専修では1名のみが二次合格であり、課題が残った。当方の研究室配属院生(M2が1名)が岡山県教員採用試験で二次合格した。

2. 教科専門

講義・演習等では実習と実験を含む内容を充実する努力を継続した。また教員採用試験の実技試験対策も積極的に取り入れ、ディスカッション形式による授業、基礎的な事項に関するレポート作成を課した。上記した通り、小学校教育専修と大学院の指導学生では教員採用試験等結果が非常に良かったが、中学校教育専修では十分ではなく、改善の余地があるのかもしれない。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

1. 講義・演習では討論を取り入れるなどの工夫を行い、基礎学力や応用力の定着を図る。
2. 技術の専門科目では実習の科目が無いため、学生の実技・実験等力量の低下が無いように、教育論・演習等での製作実習の内容の充実を図る。また従来通り、教員採用試験対策も積極的に取り入れて学生の能力向上を図る。
3. 研究室配属学部生・院生の勉学と生活等相談、進路等就職支援の充実を念頭に置いて、ゼミの指導を工夫する。
4. 弓道部顧問として指導の充実を図りたいが、時間が取れなかった。出張や業務がない土曜日の午前中に技術指導を行い、併せて学業、学生生活、就職等悩み相談等に応じたい。昨年は全教戦男子団体が全国優勝を果たしてくれたが、今年度も同じような目的を持って、一緒に活動できるように努力したい。それ以前に、また差し迫って大切なことは、年間を通じて安全に気をつけて活動することと、4月以降に新入部員を得ることも重要な課題である。
5. 地域連携として位置付けている全国中学生ものづくり競技大会徳島県大会の中学生に対する技術指導を、県下の現職教員と本学学生もボランティアとして加えて実施する。またウチノ海浜公園で開催の鳴門市教育委員会等主催“こどものまちフェスティバル”の木によるものづくり体験コーナーに学生が参加予定。当方は学生に対する事前の技術指導と指導法の特訓を行って貢献してもらう予定である。また、各種教員研修では、現職教員との交流も教育と学生生活支援の一環として、学部・大学院生には積極的に補助として参加する機会を設ける。

2. 点検・評価

1、2と3については、前項の「Ⅱ-1. 教育大学教員としての授業実践」を参照。
4. 弓道部顧問として指導に時間を割くことが困難であったが、戦績等は十分な成果をあげた。また新入部員の獲得も十分にできている。個人的には、指導時間を確保して、八節等基礎的な技能・技術と弓道の基本的な動作等の体配が向上することが課題であり、今後、一緒に活動することが課題である。
5. 全国中学生ものづくり競技大会徳島県大会の中学生に対する技術指導ほか、同大会全国大会における審査委員長を担当した。またウチノ海浜公園で開催の鳴門市教育委員会等主催“こどものまちフェスティバル”の木によるものづくり体験コーナーほか、産業情報指導者研修等各種教員研修を、学部・大学院生と共に担当した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

技術教育に関する教材開発、木質材料の物性、手加工と機械加工のメカニズムに関する基礎研究を継続し、地域の素材を活かした新しい木材の開発とその教育的利用に取り組む。教育研究活動として取り組む主な内容は以下の通り。
1. 技術教育に関する教材開発と授業実践研究
プライス切削作業の機構と生成した切屑性状の分析、各種加工技術と技能との関係の定量的分析方法の開発、授業実践力評価の検討、台湾と日本の技術教育における比較研究等の継続
2. 木質材料の物性と切削および機械加工に関する基礎研究
環境教育に配慮した教育現場における廃棄材の再利用、木材の切削機構と切屑の物性、竹材の切削機構に関する基礎的研究等
3. 地域の技術を活かした新しい素材の開発とその教育的利用
木材の曲げ加工技術の高精度化と教育的利用(名古屋大学との共同研究)、阿波藍染技術の木材染色への応用と教育的利用方法の検討(Seeds発掘試験の継続研究)等
4. 「技術科教員養成での修得基準の作成及びその基準による検定制度和競争的教育環境の構築」に関する研究
本研究は科研究費による研究として取り組んできたが、平成22年度で終了した。しかし、本研究は学会として継続することが決まっているので、継続して協力し、将来的には、試験制度の実用化に関する研究も行われるので今後も貢献したい。

2. 点検・評価

「1. 技術教育に関する教材開発と授業実践研究」のプライス切削作業の機構と生成した切屑性状の分析、各種加工技術と技能との関係の定量的分析方法の開発、授業実践力評価の検討については、修士研究と卒業研究の中で実施できたが、台湾と日本の技術教育における比較研究等については、学生の中に希望者が無く、継続研究ができなかった。
「2. 木質材料の物性と切削および機械加工に関する基礎研究」、「3. 地域の技術を活かした新しい素材の開発とその教育的利用」については修士研究と卒業研究の中で実施でき、「4. 技術科教員養成での修得基準の作成及びその基準による検定制度和競争的教育環境の構築」については、所属学会の中で、試験制度の試行を行い、この運営と試験問題作成に協力した。
いずれにしても、研究の実施と学会発表が計画通りに進んだが、国際学会での発表や論文作成にかかる時間を捻出できない深刻な状況に陥っており、この改善が重要な課題である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 引き続き、自然・生活系教育部の部長を担当する。教育部の運営について、コース長、教育部の構成員と連携を図って、教育・研究環境の改善に努力し、皆さんの希望の一つでも多く叶えたいと願っている。
2. 教育研究評議会にも継続して出席することになるが、大学運営上の課題解決に寄与したい。
3. なかなか学外へ出張が困難な立場になり残念に思っているが、これまで数値目標に関連した就職支援委員会と大学院入試委員会に属していた経験を活かして、コースや教育部の垣根を越えて教員就職と大学院定員充足に努力したい。まだ不透明ではあるが、部分的に少しずつ成果が現れ始め、両者とも活路を見いだしつつあり、これから大学訪問や現職教員への働きかけでは開拓の余地が十分にある。これからも各コースや教育部の教員や他の教育部等を支援する形で、大学運営のプラスになるように努力したい。

2. 点検・評価

1の教育部の運営については、コース長、教育部の構成員と成川評議員の協力を得て、教育・研究環境の改善、さらに学位授与機構による認証評価への対応等については、何とか基盤整備ができたように思う。
これに関連して、2の大学運営上の課題解決にも些少なりとも寄与出来たような印象を持っている。
3. 教育部長とこれに関連した人事委員会等各種委員会業務の合間を縫って、国公立大学等訪問を行い、大学院定員充足に努力し、所属の技術・工業・情報コースのみならず、自然生活系コースほか他の教育部の各コースへの本学大学院進学ルートを極僅かではあるが拡大でき、支援できたのではないと思う。

II-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

1. ものづくり教育等を通じて、附属学校教員や徳島県下の現職教員と連携し、現職教員の各種研究会活動等の充実に貢献する。
2. 徳島県総合教育センターや鳴門市等を介して、地域社会の教育活動や催し物に出席し貢献する。
3. 地域連携として全国中学生ものづくり競技大会の技術指導を徳島県下、中国四国地区9県、全国の全日中研究会現職教員との交流と連携を図りながら実施する。
4. ものづくりに関する地域の催し物に研究室学生他と積極的に出席し、地域住民、子供達、青少年や留学生との交流を拡充する。
5. これまでに徳島県森林総合技術センター、工業技術センター等と研究を通じた協力態勢を充実する努力を継続してきた。その結果、平成22年度末に、徳島県農林水産部から、林業飛躍基金事業【木造公共施設等整備】公募審査の審査委員長を依頼されて担当した。徳島県としては特別予算を計上して森林資源の有効利用を推進することが重要な課題となっており、今後、その事業の活性化に協力を求められたので、社会との連携ならびに教育への還元を視野に入れながら協力を行いたいと願っている。

2. 点検・評価

1の現職教員の各種研究会活動等の充実に貢献、2の地域社会の教育活動や催し物への貢献、3と4の各種競技大会の技術指導と運営、5の徳島県の試験研究機関と徳島県庁事業の活性化への協力を積極的に行った。
特に5では、東北地方太平洋沖大震災の復興支援に関連する各種事業支援に関連する検討委員会委員長、飯泉知事の諮問を受けた森林審議会への参画への要請など、望外の展開があり、これまでに経験したことが無い社会連携と貢献の切っ掛けを得た。
これらの活動を通して、地域やマスコミでも注目を集めつつあり、本学での教育研究との連携や還元を視野に入れながら今後も協力を継続したいと願っている。

III. 本学への総合的貢献(特記事項)